

地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 184 件

2010 年 7 月



1階プレイコーナー

こどもに優しい病院 children friendly hospital

総長 大濱 用克

この4月から、こども医療センターは新たな経営体制となりました。地方独立行政法人神奈川県立病院機構の中の神奈川県立こども医療センターとして病院を運営しています。働く職員の身分が神奈川県職員でなくなっただけで、ご利用いただく患者さんには病院のあり様が変わりはありません。病院の形態も神奈川県立病院です。開設当初から維持された完全紹介予約制に基づく病院の運営方針も変わりませんし、医療機関との連携の仕方も全く同じです。病院を管理する立場からしますと、柔軟性のある運営が期待できます。例えば、小児医療の動向や社会のニーズに素早く対応して診療部門を強化したり、新たなプロジェクト診療を始めたりすることが可能ですので、紹介機関の皆様には引き続きご提案を頂きたいと思っております。



県民モニターによる「求められる小児病院像」は、治療の困難な疾病に対する高度専門医療、他の医療機関では対応が困難な小児救急医療、在宅医療の支援、手術を必要とする小児医療、出生前後の母体・胎児・新生児医療、先天異常に対する医療、思春期に対応する小児精神疾患医療、小児リハビリテーション医療等がより力を入れるべき医療として上がっています。このモニターの結果は、私たちが現在精力的に行っている、また行ってきた医療を県民が認め、評価していることだと理解しています。

毎年1,600余の機関から7,400~7,500人の新規患者をご紹介して頂いています。神奈川県の小児人口が第二次ベビーブーム期の170万人から120万人まで減少している中で、新規患者は減ることなくこの様に多数の紹介が続いている現状は、こども医療センターが医療機関の皆様から信頼されている証であると大変うれしく思います。これからも信頼に値する小児医療の提供を日々心がけてまいります。いろいろな病気のお子さんを神奈川県全域のいろいろな機関からご紹介頂いております。私たちには紹介先がありません。そのような気持ちでこれからもあらゆる高度医療をより充実させ実施することと、一人ひとりのこどもに合った在宅医療を地域の医療資源を利用して推進してまいります。こども医療センターは「治す医療と支える医療」を行っています。

すべての子どもたちの心の健康を願って



児童思春期精神科 新井 卓

私たち児童思春期精神科では、臨床心理室と協働して、平成20年度から厚生労働省が進めている「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」での神奈川県の子どもの心の診療拠点病院として活動を展開しています。この事業は子どもの心のケアに関して、日頃私たちが行っている外来および入院診療以外に以下の三つの事業を進めています。1) <子どもの心の診療支援・連携事業>当センターの児童思春期精神科に通院中のお子さんの地域に出向いての関係者会議への参加など地域の関連機関との連携を積極的に行うことに加え、今年度の重点事業内容としては、児童精神科医、心理士を中心とした相談チームが県内の児童養護施設へ出向き、コンサルテーションを行っています。2) <子どもの心の診療関係者研修事業>一般小児科医師向けセミナー（今年度は平成22年8月28日土曜日に開催予定）、福祉・教育専門職向けセミナー（今年度は平成23年3月5日土曜日に開催予定）および専門職対象に当センターの病院見学を兼ねた講習会を開催します。3) 普及啓発活動 一般市民向け公開講座を開催します。私たちは、病院に来る子どもたちだけでなく、すべての子どもたちの心の健康を願い日々活動しています。



母斑・血管腫に対する早期レーザー治療

皮膚科 馬場 直子

母斑や血管腫を持って生まれてくる子どもの割合は、昔と変わりはないはずですが、子ども医療センターを受診される患者さんの人数は年々増え、私が最初に赴任して参りました16年前に比べて、新患数にして5倍も増加しています。母斑や血管腫のようないわゆる皮膚のあざは、生まれた瞬間から誰の目にもとまり、ご家族にとっては大変気になる悩みの一つとなり得ます。まして、顔や頸、腕や脚など目立つ部位にある場合はなおさら、幼稚園や学校などの集団生活に入る前に何とか治したいと望まれるのは当然のことと言えます。そのご希望に答えるべく、皮膚科では乳幼児期の早い時期からのレーザー治療を行っています。入院の必要はなく、局所麻酔だけで行い、終わったらすぐに帰れる負担の少ない手技です。実際に多くの症例を経験してみますと、月齢が早い時期から治療を始めるほど効果が高いことが分かってきましたので、できるだけ早い時期にご紹介いただくと有難く存じます。しかし、レーザー治療は万能ではなく、まだレーザーでは治すことのできないあざもあり、また治療しても完全に消え去るわけでもありません。あくまで、少しでも薄く目立たないようにする、といったところが現状の目標です。早期にご紹介いただいたもう一つの理由は、母斑や血管腫は単に皮膚だけの問題でなく、神経症状はじめ皮膚以外の合併症を伴う症候群の初期症状である場合があるからです。疑われる場合はすぐさま関連科にご紹介し、各科で協力し包括的な医療を行っていくことを目指しています。

平成21年度 地域医療支援事業に関する実績

1 地域医療支援病院紹介率

	平成21年度	平成20年度	前年対比
紹介率	96.0%	96.1%	—
初診患者数	7,426	7,367	100.8%
紹介患者数	7,177	6,727	106.7%

2 登録医療機関の数 (平成22年3月末現在)

地域		医療機関数	
横浜市	南部医療圏	南区	17
		港南区	15
		中区	13
		磯子区	9
		金沢区	10
		栄区	4
		小計	69
	その他の区	49	
横浜市計		118	
川崎市		15	
その他県域		42	
東京都		2	
合計		177	

3 紹介元医療機関数

	平成21年度	平成20年度
全体	1,737	1,616
病院	427	375
診療所	1,214	1,136
保健所	27	40
児童相談所	4	7
その他	65	58

※ その他は療育センター、学校、外国医療機関等

< 病院・診療所内訳 (平成21年度) >

地域		病院	診療所	
横浜市	南部医療圏	南区	3	67
		港南区	5	63
		中区	3	47
		磯子区	4	34
		金沢区	3	45
		栄区	1	23
		小計	19	279
	その他の区	63	436	
横浜市計		82	715	
川崎市		13	56	
その他県域		75	346	
神奈川県計		170	1,117	
東京都		54	42	
その他の道府県		201	52	
外国		3	3	
合計		428	1,214	

4 救急医療の提供

	平成21年度		平成20年度	
	救急外来の受診患者数	内入院を要した人数	救急外来の受診患者数	内入院を要した人数
救急外来の受診患者数	5,111	1,034	4,784	1,055
うち救急用または患者輸送用自動車により搬入した患者数	589	267	534	258
うち上記以外の救急患者数	4,522	767	4,250	797
産科救急患者数 (未受診の救急隊からの搬送を含む)	153	58	142	55
NICU直入患者数	102	102	76	76
計	5,366	530	5,002	505

[平成22年度 学習会・研修会予定]

内 容	日 程
学術集談会	6/12, 12/11
心臓血管外科学習会	6/11, 11/19, 3/18
循環器連携カンファレンス	4/23, 6/25, 10/22, 2/25
神奈川胎児エコー研究会	4/26, 6/20, 9/19~20, 12/5, 2月(未定)
心臓病胎児診断症例報告会	5/23, 7/25, 9/26, 11/28,
NST 勉強会	6/4, 8/6, 10/8, 12/14
母乳育児学習会	5/28, 11/26

[平成21年度 研修会・勉強会 実績]

対象者	日 程	テ ー マ
学術集談会		
医師・看護師等 医療従事者	6/13, 12/12	①小児難病克服への新しい試み ②再生医療の実現化に向けてー研究開発の現状と展望ー 他
心臓血管外科学習会		
医師・看護師等	4/25, 11/14, 1/30	①症例検討 ②特別講演：「重症先天性心疾患に対する外科治療戦略」 他
循環器連携カンファレンス		
医師・看護師等	5/23, 7/25, 9/19 11/28, 2/20	①症例検討：「紹介いただいた症例の報告」 ②特別講演：「先天性心疾患の運動負荷試験と運動処方」 他
神奈川 胎児エコー研究会		
医師、技師、助産師、 看護師等	6/14, 7/26, 9/1 10/11, 10/12 12/6, 2/28	①わかりやすい胎児脳エコー入門 ②二分脊椎の外科治療 ③特別講演：STICを使ったCHDのスクリーニング ④総肺静脈還流異常 症IIaのSTICによる後方視的検討 他
NST勉強会		
医師・看護師等 医療従事者	4/18, 6/16, 8/15, 10/17, 12/22, 2/6	①こども医療センターのNST紹介 ②成長の「しくみ」を知ろう ③小 児の摂食機能の発達とその障害 ④嚥下機能の基礎と臨床 ⑤胃ろう と半固形化、GER ⑥JSPEN参加報告 他
母乳育児学習会		
医師、助産師、看護師 等	5/30, 11/23	① 一人目の母乳育児がうまくいかなかった母親へのカウンセリング ②唇顎口蓋裂(口唇口蓋裂を持つ)赤ちゃんへの母乳育児支援 他
第6回小児科 夏季セミナー		
小児科志望研修医、 小児科医師	8/1, 8/2	小児科(救急診療科を含む) 10 コマ 外科、形成外科、放射線科、児童思春期精神科 計14 コマ
ハートキッズセミナー		
心臓病のこどもと家族 地域のこどもと家族 医師、看護師等	6/6, 3/13	ー心臓病や心臓手術などの治療についての理解をふかめるためにー ブタの心臓を使った手術体験、心臓エコー体験、心臓カテーテル検査 人工心肺、人工弁、人工血管、生体のり、ペースメーカー、AED等



4階西病棟学習室

安心して治療を受け地域で生活するための

支援体制の充実をめざして

4階西病棟 渡部 玲子

4階西病棟は平成18年1月より思春期も含めた内科外科の混合病棟としてスタートしました。患者さんの年齢層は幼児期から成人にいたるまで幅広く、母性を除くほとんど全ての診療科の患者さんが入院します。入院期間も短期間から1年以上にわたる長期入院の患者さんとさまざまですが、幼い頃からこども医療センターで治療を受け入院をくり返しながらか成長してきたこども達も少なくありません。医療機器を持って在宅に向う準備をしている患者さんや外科手術を受けた後に内科的治療を続けるために、地域の学校から当センターの敷地内にある県立横浜南養護学校に学籍を移し、学習を継続している患者さんもいます。あらゆる場面で地域との関わりを感じます。患者さんやご家族が安心して治療を受け、地域で生活していくために必要な情報交換をタイムリーに行ないながら支援する体制をさらに充実していきたいと考えています。

病棟のドアを開けるとすぐに満天の星が瞬く夜の海を泳ぐ「いるか」のレリーフが迎えてくれます。こども達がこの「いるか」のように大きくジャンプするのをみんなで見守りたいと思います。



緩和を機軸とした優しい医療を目指して

緩和ケアチーム(PCT) 麻酔科 三輪 高明

緩和ケアチーム(PCT)は、医師3名、看護師3名、薬剤師1名、心理士1名をコアメンバーとして、昨年度から活動しています。当センターPCTは、すべての病気の根幹に存在する身体、心の苦痛症状に対しては、疾患の種類、時期に関わらず、こどもたちやそのご家族に適切な緩和ケアが迅速に提供されてしかるべきであるというコンセプトを共有しております。

週1回開催される定例カンファレンスでは、主治医、看護スタッフなどから介入依頼があった症例に対して、コアメンバーに加えてセンター内の協力各部門の出席を仰いで、コンサルテーション活動を行っています。また、小児医療のあらゆる面で緩和の概念が必要であることから、小児緩和ケアセミナーを定期的で開催して、その普及、啓蒙、教育を図っています。本年度から新たに侵襲の強い処置・検査を受けるこどもたちの苦痛の軽減を図るべく、静脈麻酔を中心としたAcute Pain Serviceを開始しました。

PCT活動とは別に、緩和ケア検討会議を定例開催して、当センターでの医療のあらゆる側面で、緩和医療の問題点を議論・整理、医療倫理的問題の検討などを開始しました。現在は、入院されているこどもたちとご家族のみを対象としていますが、将来的には外来も含め、緩和を機軸とした小児医療の展開に繋がられるように、PCTは活動して参ります。

神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませます。

3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行います。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

第5回 小児緩和ケアセミナー

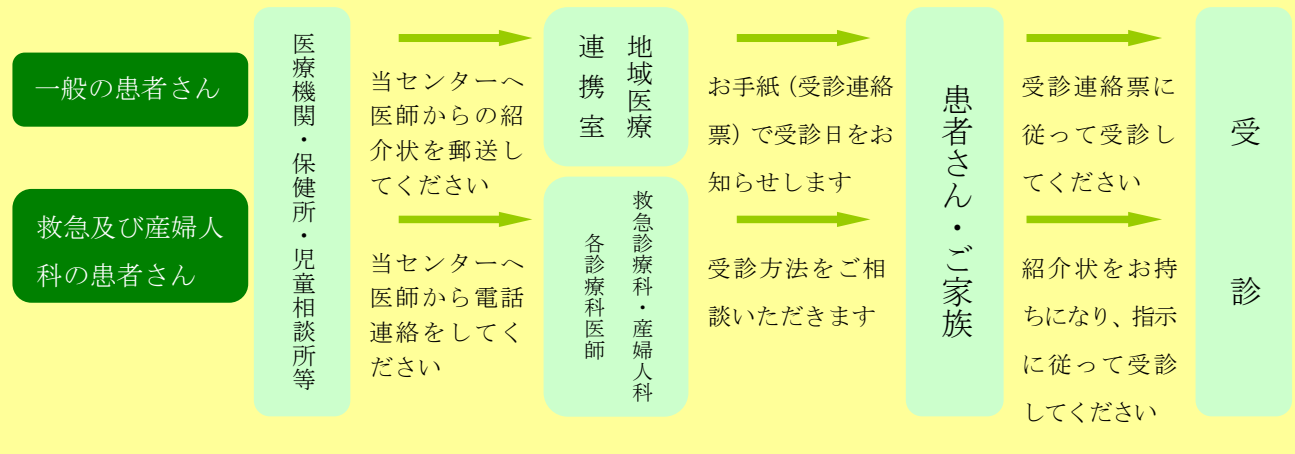
- ☆ 日時：平成22年8月5日(木) 18:00~19:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ テーマ：こどものための緩和ケアと在宅医療
- ☆ お問合せ：地域医療連携室

第8回 小児科夏季セミナー

- ☆ 日時：平成22年8月7日(土)・8日(日)
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ 講師：当センター医師
- ☆ お問合せ：地域医療連携室

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933

<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/kodomo/> (平成22年4月1日より変更となりました。)

